

# 大川小 遺族の男性

# 語り継ぐ 亡き娘と



津波で次女を亡くした大川小で、語り部として活動をしている佐藤敏郎さん＝宮城県石巻市で（榎戸直紀撮影）

東日本大震災で児童や教職員八十四人が犠牲となった宮城県石巻市立大川小学校で、当時の六年生は今年、成人式を迎えるはずだった。同市の元中学教諭佐藤敏郎さん(五五)の次女みずほさん(当時二二)もその一人。震災や防災の教訓を若い世代と共に語り継ぐ佐藤さんは「娘や大川小の子どもたちが導いてくれている気がする」と校舎を見つめた。(天田優里)

## 東日本大震災 8年

関連3(19)面

護岸工事の重機が行き交う川沿いの一角に、大川小の校舎は震災当時のまま残る。津波で窓ガラスと壁は壊され、外から教室の中が見える。曲がった鉄筋やゆがんだ天井が津波の威力を物語る。佐藤さんは「ここは震災遺構である前に、娘たちが通った思い出の母校なんです」と話す。八年前。みずほさんは卒

## 若い同志からも勇気



業式で児童代表としてピアノ演奏をするため、日々練習に励んでいた。卒業アルバムに記した夢は「通訳者」。式を一週間後に控えた三月十一日は、ちょうど中学校の制服が届く予定日で、新生活に胸を膨らませていた。しかし、「行ってきます」と家を出たきり「ただいま」を言えなかった。

という声が相次いだ。佐藤さんは教員を辞め、震災を伝える語り部となった。だが、今も疑問は尽きない。市防災センターに展示されている街の被災状況を写したパネルに、大川小の写真はなかった。東北四県や国などが震災遺構を提示する「震災津波伝承ロード(仮)」のイメージ図にも大川小はない。市と国土交通省東北地方整備局はいずれも「特に意図的に外したわけではない」としている。

一方で、震災や大川小の教訓を伝えようと活動を続ける二十代前後の被災者たちがいる。長女の大学生そのみさん(三三)もその一人。若い人たちがつらい体験と向き合い、前に進む姿に佐藤さんは勇気づけられている。みずほさんは成人式を迎えられなかったが「その子たちの中に娘の存在を感じる。みずほの遺志は、きっと受け継がれているはず」と力を込めた。